

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちはすべての人の尊厳を守ります。私たちは、その人が最期までその人らしく生きていける環境を創り出します。」を理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームでは、理念を全職員が共有することを最も重要なことと考えています。月2回の勉強会やカンファレンスでの話し合いは、全ての利用者の「尊厳」を守り、その人が最期まで人間としての生活を全うするにはどういう生活をして行くことがよいのかを議論の中心にしています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的に新聞を発行し、ご家族に送付したり、地域の回覧で回すなどして、グループホームでしていることなどを理解していただけるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ボランティアによる太鼓の披露や夕涼み会などの行事に参加していただけるよう呼びかける他、日頃のあいさつやお付き合いを大切にしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの保育園、小・中学校と交流があり、運動会などの行事に参加させていただいている。事業所の方にも、ボランティアや、職業体験で訪ねてくださることもある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	下呂市社協の介護家族の会で「認知症高齢者介護」勉強会、相談交流会でお話しさせていただいています。中学校の職場体験、高校の実習を積極的に受け入れています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価を行ってもらい、職員の意見をまとめ自己評価表に記入しています。評価結果については、勉強会で報告し、改善していくことを具体的に検討し、実行しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの生活を理解して頂き、地域での活動に参加して頂くことを話し合ったりしています。(イベント開催の参加呼びかけを回覧板で回覧してもらったり等)		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険室や福祉課の担当者と連絡を取り、指導を受けたり、話し合いを行っています。また、介護保険室担当者がホームホームを訪問してくれる機会を多くしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に利用者、家族の状況を把握しながら権利擁護や成年後見制度の情報提供できるようその都度話しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、「高齢者の虐待について」学ぶと共に、利用者に対するサービス向上に努めています。また、虐待を発見した場合は速やかに管理者に報告することを徹底しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による介護が利用者にとって必要なことと思います。出来るだけ職員の移動がないように努めています。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修等参加してもらうよう呼びかけている。また、各職員に合わせて、研修を受ける機会を確保できるよう努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飛騨地区連絡協議会が3ヶ月に1回開催されており、他の事業所と交流したり、情報交換をしています。ケアマネ交流会は、2ヶ月に1回実施しています。また、他のグループホームとの交流も行っています。	○	グループホーム同志の交流の機会を増やし、1日実習を行ったり、勉強会に参加し合ったりすることでお互いにグループホームの質の向上を図っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスに気を配り、勤務軽減や休憩の時間を考慮しています。職員間の人間関係を把握し、個別に話し合いを行っています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員のレベルアップを考え、研修・セミナー等の参加を呼びかけたり、資格取得についても積極的に取り組みをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が家族と一緒にホームにみえた場合は、本人からも話を時間をもつようにしている。ホームにみえなかった場合でも必要であれば、自宅や入所中の施設を訪ね、話を聞く機会を作るようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の際、入所に至る経緯、家族の話、悩み、これからの希望等を聞くように心がけている。ご家族の希望に合わせ、ゆっくり話をきく時間を作るようにしている。	○ 家族が十分に安心して、話ができるように受け入れる気持ちで話を聞く。また、それが相手にきちんと伝わるような態度、姿勢を示して対応する。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで対応できないと思われる方等については、その他のサービス利用も視野にいれた対応をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	突然の入所で混乱等招かないためにも、事前に見学に来ていただいたり、それが無理な場合でも、本人の居場所が感じられる雰囲気作りをしている。家族などの情報などから、安心感がもてるよう、会話の内容を工夫したり(入居者の好きなことなど)している。決して無理強いをしないようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意なことをしてもらい、教えてもらいながら、いろいろな話を聞かせて頂いている。「介護する側」「される側」という概念がまだまだ職員の心のどこかにあり、利用者の心の中にもお客様感覚があると感じる。	○ 自立支援を進めていく中でこうした概念をなくしていき、本当に対等な関係性を築きたい。馴れ合いの関係になりがちな場所であると思うが、ケアプランやICF等勉強していく中で、そこに陥らない意識を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	現在、センター方式で情報を提供していただいたり、面会時は入居者の状態をその都度伝えている。病院の付添、イベントの参加、家族の助言など協力していただいたり、理解をしていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	28にもあるように、よりよい関係を築いていけるよう努めている。職員は裏方に回り、家族の役割。ふれあいを大切にするよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪問して頂くよう伝えている。また、本人をとりまく人間関係の把握に努めている。また、時には親戚の家の訪問など、継続的な交流ができるよう支援している。行きつけの理容室等外出支援もしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知度が進み、孤立しがちな入居者をフォローしたり、他の入居者に理解していただけるよう、個別に話をしたりしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて、連絡を取り、情報を把握するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話により、本人の希望をくみ取り、その情報を職員全員で共有し、ケアプランの作成に努めている。それが困難な場合も、本人の立場になって考えるように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族・本人から生活歴等情報を頂いている。入所後も日々の会話の中や、家族との会話の中から把握に努めている。	○ センター方式を利用し、職員で書き込みを行ったり、家族にもお渡しして記入して頂いている。モニタリングの際にも職員の知れた情報を積極的に出し合っているが、職員一人ひとりがどこまで把握できるかが問題だと思う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人の職員が把握できていないだけで、それは把握できていないということになる。職員一人ひとりの個性ももちろん大事だが、責任をもつということ、自分の仕事の自覚を深めていきたい。	○ 月2回の勉強会での話し合いや情報交換により、各自把握する。(自分の担当の利用者だけでなく)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人とどんな生活をしていきたいのかを話し合ったり、ご家族の意見を取り入れながら、カンファレンス、勉強会など職員全体で意見交換し、本人にとってもっともよりよいケアプランとなるよう取り組んでいる。	○ 本人とは訪室したりして話し合う機会があるが、家族とはまだ十分に話し合ったといえるまでには至っていない。家族の意見をたまにしか聞いていない為、全スタッフが(担当者だけでなく)意識して関わってほしい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて見直しを行っているが、担当する職員によって、ムラがあるのが現状だと思う。担当者によってケアの質が変わってはならない。	○ 入居者の変化に合わせ、素早く見直しをしたい。また、情報交換を密にし、報告相談連絡の3つを心がけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルが用意されているが、その日にあったことが、漠然と記載されていることが多く、ケアプランに沿った記載が少ないため、情報の蓄積につながっていない状態だと思う。また、ケアプランに基づいた視点が不足していることの表れだと思うので、勉強していきたい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に合わせて、通院の付添、送迎を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本が好きな利用者には図書館利用の外出支援をしている。地域の小中学校・保育園と交流をもち、子供たちとのふれあいも大切にしている。ボランティア(太鼓演奏、落語等)の受け入れも行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームのため必要なし。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護等必要な入居者のことで相談にのっていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族共に希望するかかりつけ医があり、安心している。体調により、訪問診療にも来てもらえる。	○	利用者で受診できる方は、ご自分で受診してもらっているため、このまま続けていきたい。受診を習慣にし、利用者本人にも健康に関心をもってもらえるようにしたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが、近くにかかりつけ医(萩原北医院)がいるため、相談ができる体制になっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	萩原北医院の看護師等に、気になる症状など相談して健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、介護サマリー(本人の普段の様子・支援方法)を提供し、利用者の状況を知ってもらうことで、本人のダメージを少しでも減らすよう努めている。入院時には頻繁に見舞うようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	何かあった時には、早めにご家族と連絡を取り、現在の状況、これからの方針等、かかりつけ医とも協力しながら話し合いを行っている。重度化に伴い、意志確認書を作成し、事業所が対応し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意思を尊重しながら、納得した最期を迎えられるよう、かかりつけ医と連携して随時意思確認を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活を大切にするためにも、介護サマリー(本人の普段の様子・支援方法)を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前で誇りを傷付ける介護をしたり、誘導の声かけをしないよう配慮している。職員一人ひとりの意識向上が必要だと思う。日々の関わりの中で気になったことなどは、注意し合ったり、勉強会で取り上げたりして話し合いを行っている。記録等は他の人の目に触れないようにしている。	○	今後も気になったことは話し合い、良いものにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症の症状により、一人ひとりにあった説明を心がけている。入居者に考えて決めてもらえるよう、一人ひとりに合った時間を取るよう心がけている。少しずつだが、「職員がやってくれる」「職員の仕事」「やっってもらうのが当たり前」という雰囲気はなくなってきたと感じる。	○	利用者で選んでもらう、決めてもらうことは生活の中にたくさんあると思うので、一つ一つを大切に、気付けるように接していきたい。忙しい中で入居者の思い、希望を十分に聞く前に職員が誘導してしまうことがある為、入居者が自分で考えられるよう上手な促しをしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者の希望に沿った毎日を送ってもらいたいと努力しているが、当日の日課に追われてしまうことも多い。消極的な入居者も多いため、流されていっていることも多いのではないだろうか。生活歴などを見直して、その人らしい生活をもっと楽しんでもらえたらと思う。	○	猫の世話、畑作業などを自分の役割とし、その人らしく生活してみえる利用者もいれば、何もすることがなく居室で休んでいる利用者もいる。生活歴から、いろんなことを試みていきたい。その日をどのように過ごしたいかもう少し個別で一人ひとりに聞き、希望に沿って支援したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に沿って、理容室・美容室へ外出してもらっている。外出困難な方には、美容師の資格をもつ職員が散髪・毛染めを行っている。化粧の希望には応えたり、こちらからすすめたりしている。	○	居室に鏡を用意することで、生活に潤いをもたらす事ができるのではないかな。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、その人の苦手なものは別メニューにするなどしている。食事準備をたくさん利用者に行ってもらえるよう声かけしているが、よくされる方、あまりされない方とみえるため、よくされる方にとっては不満・負担に感じることもあるようだ。	○	得意・不得意、好き嫌いもあるだろうが、もっと一人ひとりの力を発揮できるよう、ケアプランに取り入れて、楽しみなものとなるようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	糖尿病などの病気のある方、たばこの消し忘れなどの危険性のある方などについては、こちらで管理し、一人ひとりの状態に気を付けながら、利用者の希望に合わせて楽しんでもらっている。	○	発言の少ない人や、身体的に感情の表出がしにくい人からもっと意見を取り入れたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な利用者には排泄チェック表を利用し、排泄パターンをつかみ、時間を見計らって声掛けをしている。	○	自立しているが尿臭がある人への排泄の声かけ、排便の確認が明確ではないので、踏み込んだ支援が必要か。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日おき一応は決めてあるが、本人の習慣や希望、状態に合わせて、決められた日以外にも入浴してもらっている。就寝前に入浴していただいたり、気の合う入居者同士での入浴等。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転などリズムが狂わないよう、昼間体を動かしたり、夜に休めるよう働きかけを行っている。また体調に合わせて休息できるよう支援している。夜間なかなか寝付けない方には、添い寝や、談話するなどして工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランに取り入れ積極的に支援に取り組んでいる職員もいるが、そこまで手がまわっていない職員も。	○	センター方式などで、家族に情報提供をしていただいているので、眠っている能力をどんどん引き出していきたい。畑仕事、台所仕事、針仕事など、それぞれ得意分野で楽しみながら力を発揮してもらえよう働きかけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の管理を自分でできる方にはしてもらい、できない方には金庫で預かることを習慣化し、外出時など必要な時にお渡しするようにしている。買い物、診療費等自分で支払い、選ぶ楽しさを満喫している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物はもちろん、喫茶店に行ったり、美容院やご自宅などにも出かけられるように支援している。一人で出かけられるときは安全に配慮している。	○	外出する方は決まった方が多いため、普段外出されない方もどんどん出かけられるよう誘い出したい。もっと希望の言いやすい環境を作っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	親戚の家や地元の祭り、ふうき採りなど、希望する場所への外出支援をなるべく行っているが、日常生活に追われて難しい面がある。	○	一部の利用者だけでなく、行きたい場所は把握しておき、実行できそうなものは調整して実行していきたい。ご家族も巻き込んでいきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や職員の促しにより、電話を使用してもらったり、葉書・切手を買って置き、希望があればお分けするようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お客様がみえた時にはお茶を出したり、声をかけたりして、明るい雰囲気、気軽に訪ねられる雰囲気作りを心がけている。	○	家族など訪問された時、より施設を感じさせないようなアットホームな雰囲気であればいいと思う。居室以外にも、ゆったりと気兼ねなくくつろげる空間(部屋)があるといいのではないかと。(お茶を自分たちで用意できる等)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。勉強会や申し送り等で、自分たちのケアを振り返り、自覚しない拘束をしていないかいつも気をつけている。	○	日常的にこのケアでいいのかを話し合いながら、その人の尊厳を守れるよう努力していきたい。知らず知らずに仕事を日常業務化してしまうマンネリ感(惰性)に気を付けたいと思う。我が事として楽しみ、苦しむ。それを忘れてはいけないと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかけておらず、自由に入出入りしてもらっている。外に出られた方は、その人の能力に合わせて声をかけたり様子の見守り等行い安全に気を付けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングにいる利用者のはの把握もちろん、居室で過ごされる方もこまめに居室に訪室し、一人ひとりの所在を確認している。また、注意深く様子を見、安全に気を付けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせ、包丁、ガスコンロ、針など安全に配慮しながら使ってもらっている。収集のある利用者に対し、薬など、危険のある物は見えない場所に片付ける等、工夫している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせて、付き添ったり見守りを行ったりして取り組んでいる。危険なことがあった場合は、ヒヤリハットノートに記入し、職員全体で再発防止に努めている。	○	事故防止の意識が全体的にはあるが、今一度確認し、対応を徹底したい。日誌、ヒヤリハットノートに記入していないことがあるため、全職員で再発防止を徹底したい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網を作り、何かあれば連絡を取れる体制になっている。近隣の医師などから指導を受けたり、マニュアルを作成しているが、もう少し定期的に訓練する必要がある。	○	訓練・指導を定期的を受け、全職員が対応・対処できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器の置いてある場所、使い方など知っている。災害発生に備え、備品等準備している。定期的に避難訓練を行い、意識を高めたい。	○	避難訓練を定期的に行い、職員・利用者が災害に対しての意識を高められるようにしたい。地域の人々にも協力を得られるように努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の危険性がある利用者、健康状態が思わしくない利用者など、必要に応じてご家族に連絡を取り、対応策を話し合っている。	○	本人や家族の要望を聞き、意見を交換しながら、共通の認識(本人優先の考え)を持ち、できるだけ、普通に穏やかに生活していける様にしたいと思う。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで普段の様子を把握しており、変化があったときも見逃さないようにしている。体調変化は申し送りノートに記載し、また口頭で伝え合ったりして対応している。	○	常日頃から、本人の体調を把握し、予測できる変化や異変に迅速に対応できるようにしたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分な理解はできていない。服薬の支援はチェック表を使っている。薬の処方などに変化があった場合は、申し送りノートと口頭で連絡し全職員に伝わるようにしている。症状の変化は申し送りの記載が不十分であると感じるため、気をつけていきたい。	○	勉強会で学んでいくほか、個別に勉強していく。服薬チェックだけでなく、服用後の変化にも注意する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を用いて、必要な時には薬を服用してもらっている。また、便秘の原因を考え、水分補給、繊維質の多い食材、乳製品など採り入れたり、体を動かすよう、散歩に誘ったり工夫している。	○	身体運動については、少し前までは散歩を積極的に日課の中に組み込んでいたが、最近はあまりできていない。再度取り組んでいきたいと思う。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後・夜間の歯磨きの声かけ、義歯の洗浄等、必要に応じて支援している。自立している方については、声かけ程度でなかなかそこまで踏み込めない現状があると思う。	○	歯についての健康を意識してもらおうよう、定期健診を行ってはどうか。職員は、声かけや、清潔保持の必要性を訴えていく必要がある。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立、おやつ時(10時、15時)の水分補給など採り入れている。水分摂取が少ないと思えば、水分補給をすすめたり、食事の摂取量が少なければ、栄養補助剤を飲んでもらったりと、一人ひとりの摂取量を把握して支援を行っている。また、体重を毎月一回測り、体重の増減にも注意したり、糖尿等、病気のある方には、量や内容に注意し	○	食事の摂取量が多すぎる入居者への対応ができていないため、容器を小さくしたり、カロリーの少ない物を食べてもらうなどして工夫したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する勉強やそれに向けての対策を勉強会で学んでいる。また、正しい手洗い方法など実演し、利用者にも実行してもらっている。	○	職員間においては、手洗いの励行等、行われているが、入居者の一人ひとりについては、まだ手洗い等、不十分だと思う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日夕食後にふきんやまな板の洗浄・漂白、流し台の清掃を行っている。又、食材も新鮮なうちに使うよう気をつけている。絶えず、賞味期限の注意、冷蔵庫内の衛生管理、食品管理を行っている。	○	食材の管理があいまいになりやすいため、購入日を品物に記入するなどして徹底したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇を置いたり、ホームの新聞・小物を飾ったりして親しみやすい雰囲気作りに努めている。ゆるやかなスロープなど工夫もある。	○	照明が暗い気がする。もっと家庭的な雰囲気があるといいと思う。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の清掃、心地よい音楽、又、四季折々の花など取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階にソファがあり、そこでよく一人でくつろいだり、何人かでおしゃべりしている場面をよく見かける。冬場には2階リビングにコタツを設置している。	○	2階リビングや1階リビングのベランダ等、活用して「居場所づくり」を考えてみたい。特に2階の洗濯物干し場等、見晴らしが良いので、外気浴も考慮して、活用する工夫をしても良いのではないかと。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など、馴染みの物を持ち込んでいただいている。家族と相談しながら使い慣れた箸、湯のみ、茶碗を使用している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングや廊下はこまめに換気したり、エアコンによる温度調節を行っているが、また、本人の体温を測ったり、触れたりして、冷たくないか、発汗していないかなど、考えながら一人ひとりに合った対応をしている。	○	居室まで配慮が行き届いていないときもあるようなのでリビングや廊下だけでなく、気を付けるようにしたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターも階段も設置されている。廊下・浴室など至る所に手すりをつけている。物につまずいて転倒されないよう、整理整頓を心がけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの流し方の貼り紙、物の置き場所の定位置など、混乱がないよう配慮している。居室の名札を大きく書いたり、リビングの入り口に提灯をつけたりして工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	車椅子でもテラスから直接庭に出られるようになっており、気軽に散歩できる環境がある。また、畑もあるため、昔からやってみえた方、現在も意欲のある方に利用していただいている。	○	一部の入居者しか活用していないため、活用する入居者を増やしていきたい。入居者の意見を取り入れて、もっと生き生きとした活気と、安らぎのある環境を作ることができたら楽しいと思う。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

岐阜県. NPOグループホーム すずらんの木 (2階)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)